

高校教科書を使った CLIL実践

CLIL SEMINAR 2017

栃木県立宇都宮南高等学校

渡辺 聡代

発表者紹介

- 渡辺 聡代(わたなべ あきよ) 栃木県立宇都宮南高等学校教諭
- 「英語の授業はAll in Englishで」ということや、「教科書で教える」ということ、「観察の徒弟制」などに悩まされてきた。
- 2015年11月より、「宇都宮市小学校英語教育研究会」でCLILについて学び、実践を試みている。
- 中学校・高校の先生方とも学びの会を行っている。
- 人権教育の必要性を強く感じている。

CLIL(内容言語統合型学習)とは

言語教育とテーマや他教科などの本物の内容を統合した形で行う教育方法の総称である。さまざまな言語活動と指導を行い、4技能を向上させていくことを目指す。英語を、本物の内容を通して学び、意味ある活動の中で思考を促しながら活用することによって、効率的かつ深いレベルで修得し、英語の「知識力」とともに思考力と表現力などの「活用力」を伸ばす教育を意味する。これまで有効的であると示唆されてきた教育原理・技法を有機的に統合し、言葉の「学ぶ」と「使う」を融合させて、高品質な授業を実現するための教育法である。池田(2011)和泉(2016)

4つのCについて

- Content (内容) = 学習者の興味と動機付けを高める本物の内容
- Communication (言語) = 言語の「学び(知識の習得)」と「使う(活用)」の融合
- Cognition (思考) = 記憶だけでなく、分析や創造などさまざまな思考を促すタスク
- Community (協学) = オーセンティックな教材を用いた4技能統合型の協同学習

4つのCの「統合」について

「CLILにおけるキーワードは、『統合』である。『4つのC』がばらばらではよい授業にはならない。『内容』と『言語』の統合ができていないと、授業中の生徒の英語の使用は少なくなる。(中略)『思考』があっても『言語』が統合されていないと話し合いは日本語になる。『思考』を伴わない『協学』は、単なるゲームやドリルの域を出ない。」山崎(2016)

授業の映像をご覧くださいにあたり

宇都宮南高校について

- 県立 全日制 普通科 3年生7学級(1学級:約40名)、1・2年生8学級
- 卒業生の進路
- 英語の教員11名(そのうちALTが1名)
- 教科書で決まった範囲を定期テストに出題
- 使用教科書 *Vivid English Communication II* (第一学習社)
- 指導案について お手元の資料をご覧ください

高校検定教科書を使ったCLIL実践

- 宇都宮大学教育学部 山野有紀先生よりご指導いただいた。
- 世界遺産小笠原諸島についての学びを深く行うことができた。
- 教師も生徒達も終始内容にフォーカスするので、教師は文法的な間違いを恐れずに英語を発話できた。
- 自己関連性のある内容、オーセンティックな素材の活用により、生徒たちの学習動機が高められた。
- 教材研究の時間の捻出が課題である。

授業は楽しかった

* CLIL	そう思わない	・・・ 0.0%
	あまり思わない	・・・ 8.4%
	まあ思う	・・・25.3%
	思う	・・・66.2%
* non-CLIL	そう思わない	・・・ 0.0%
	あまり思わない	・・・33.3%
	まあ思う	・・・50.0%
	思う	・・・16.7%

英語が分かった

* CLIL	そう思わない	・・・ 0.0%
	あまり思わない	・・・ 19.3%
	まあ思う	・・・ 55.4%
	思う	・・・ 25.3%

* non-CLIL	そう思わない	・・・ 4.8%
	あまり思わない	・・・ 2.4%
	まあ思う	・・・ 59.5%
	思う	・・・ 33.3%

内容が分かった

* CLIL	そう思わない	・・・ 0.0%
	あまり思わない	・・・12.0%
	まあ思う	・・・51.8%
	思う	・・・36.1%
* non-CLIL	そう思わない	・・・ 2.4%
	あまり思わない	・・・ 4.8%
	まあ思う	・・・40.5%
	思う	・・・52.4%

やりがいがあった

* CLIL	そう思わない	・・・ 0.0%
	あまり思わない	・・・10.8%
	まあ思う	・・・63.9%
	思う	・・・25.3%

* non-CLIL	そう思わない	・・・ 2.4%
	あまり思わない	・・・14.3%
	まあ思う	・・・71.4%
	思う	・・・11.9%

高校英語検定教科書を使ったCLIL実践

- 次期学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」
- 新テストの導入 → 4技能を評価
- 英語の苦手感に対応する指導の工夫
- 円滑な小中高大接続の工夫
- ヨーロッパ評議会 体験参加型での人権教育の推進へ

参考文献

- 池田真. (2011)「第1章 CLILの基本原理」. 渡部良典、池田真、和泉伸一. (共著) (2011)『CLIL(内容言語統合型学習): 上智大学外国語教育の新たなる挑戦—第1巻 原理と方法』. 上智大学出版
- 池田真、渡部良典、和泉伸一. (共編) (2016)『CLIL(内容言語統合型学習): 上智大学外国語教育の新たなる挑戦—第3巻 授業と教材』. 上智大学出版
- 和泉伸一. (2016)『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業—生徒の主体性を伸ばす授業の提案』. アルク
- 文部科学省. (2016)『次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)ポイント』. Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/__icsFiles/afieldfile/2016/08/02/1375316_1_1.pdf
- 山崎勝. (2016)「高校の英語授業へのCLIL(内容言語統合型学習)の導入」Encounters 4.121-125. Retrieved from <http://www2.dokkyo.ac.jp/~doky0016/encounters/>
- ヨーロッパ評議会、(企画)福田弘. (訳) (2009)『コンパシット[羅針盤]子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』. 公益財団法人 人権教育啓発推進センター